

ブリの資源・漁業及び 資源管理について



平成25年3月
水産庁

資料の構成

1. 生態等
2. 漁獲の状況
3. 資源の動向
4. 資源管理の現状
5. まとめ

1-1. ブリの生物学的特性

寿命:	7歳前後
成熟開始年齢:	3歳 (一部)、4歳 (100%) (1月を誕生月とする)
産卵期・産卵場:	冬～初夏 (1～7月)、東シナ海の陸棚縁辺部を中心として、九州沿岸から日本海側では能登半島周辺以西、太平洋側では伊豆諸島以西
索餌期・索餌場:	夏～秋季、九州沿岸～北海道沿岸の東シナ海、日本海および太平洋
食性:	仔稚魚は動物プランクトン、未成魚以降はイワシ類、アジ類などの浮魚類の他、底魚類
捕食者:	流れ藻に付随する時期には共食いをすることがある

1-2. ブリの分布・系群

○ 分布

- ・流れ藻につく稚魚(モジャコ)は、3~4月 に薩南海域に出現し、4~5月には九州西岸から長崎県五島列島近海および日向灘から熊野灘に、6月には島根県隠岐周辺海域に多く分布する。
- ・幼魚から親魚は、九州沿岸から北日本沿岸まで広く分布する。
- ・成魚は産卵のため、冬から春に南下回遊する。
- ・対馬暖流域では成魚の回遊パターンとして、北部往復型(北海道沿岸と東シナ海の間を往復回遊)、中・西部往復型(能登半島以西の日本海と東シナ海の間を往復回遊)が確認されている。
- ・太平洋では、遠州灘-四国南西岸回遊群、紀伊水道-薩南回遊群、豊後水道-薩南回遊群のようにいくつかの小規模の回遊群が観察されている。

○ 系群

- ・系群は全国で一つと考えられる。
- ・東シナ海中南部が最も大きく早い産卵場であり、そこで生まれた仔稚魚が太平洋側と日本海側に配分される。
- ・それぞれの海域にも産卵場はある。
- ・津軽海峡を通じた交流もある。

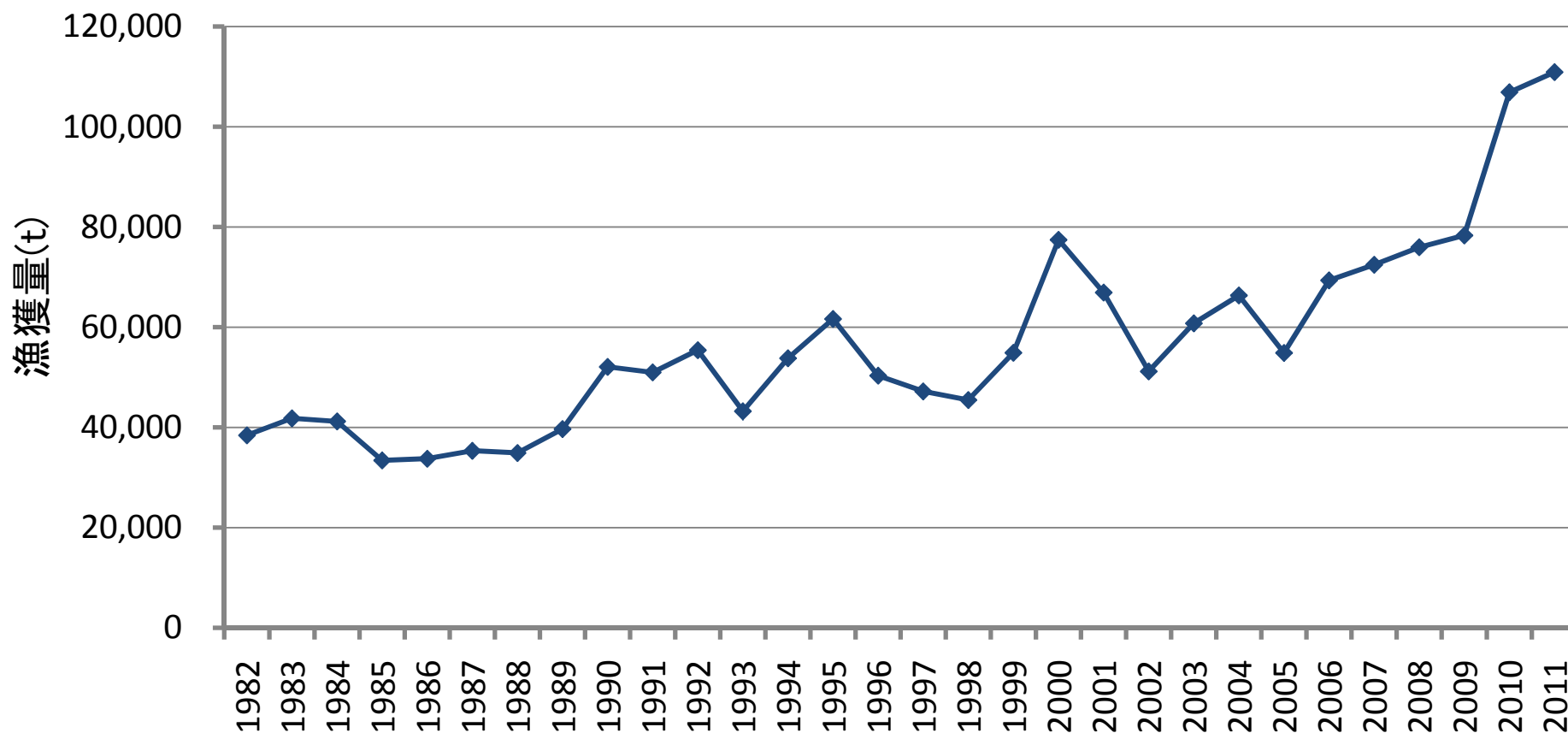


分布域

2-1. ブリ類の漁獲量推移

○ ブリ類の漁獲量は増加傾向にあり、2011年で110,917tとなっている。

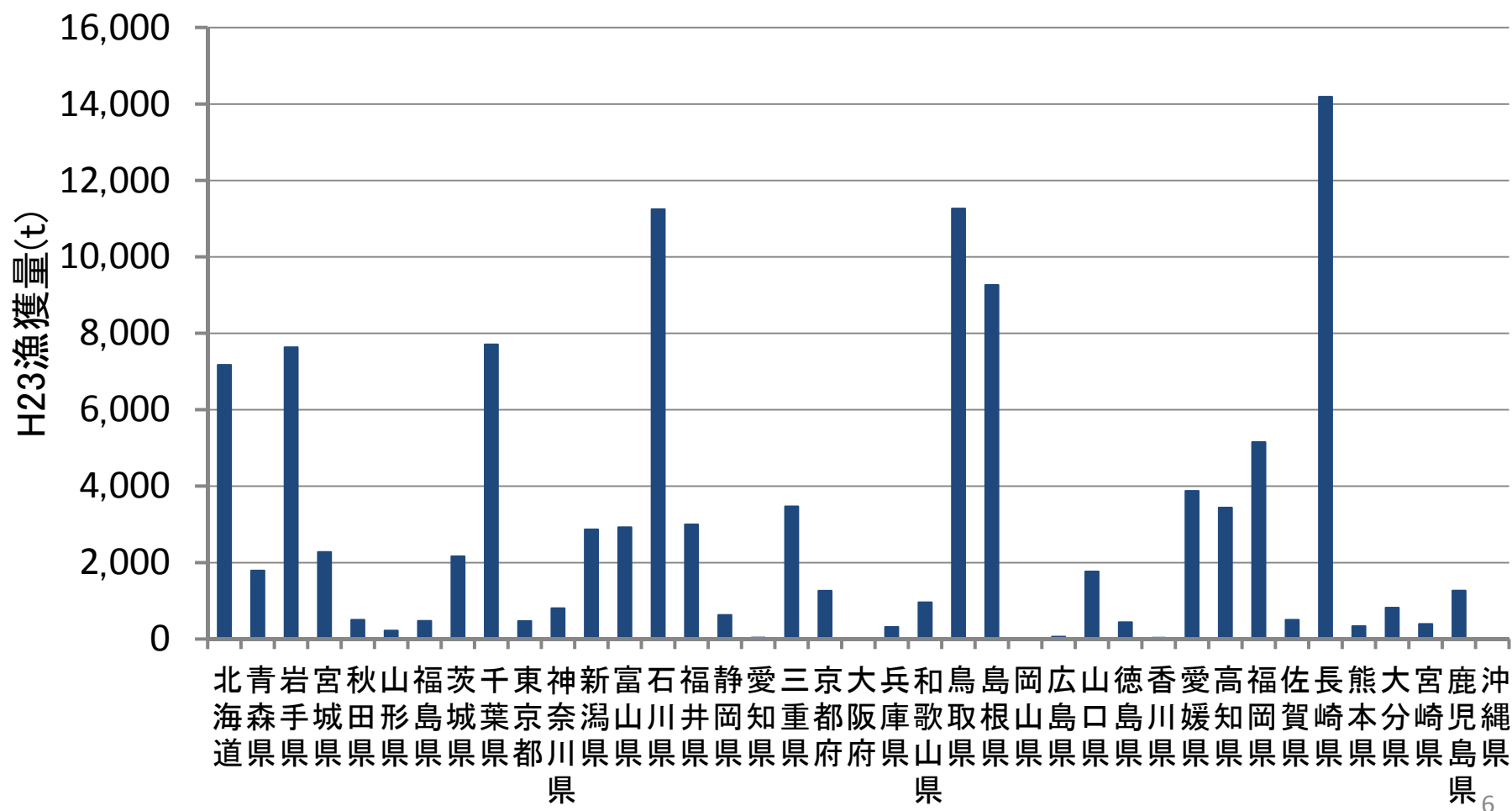
○ ブリ類にはカンパチ、ヒラマサも含まれるが、その多くがブリとされる。



2-2. ブリ類の都道府県別漁獲量

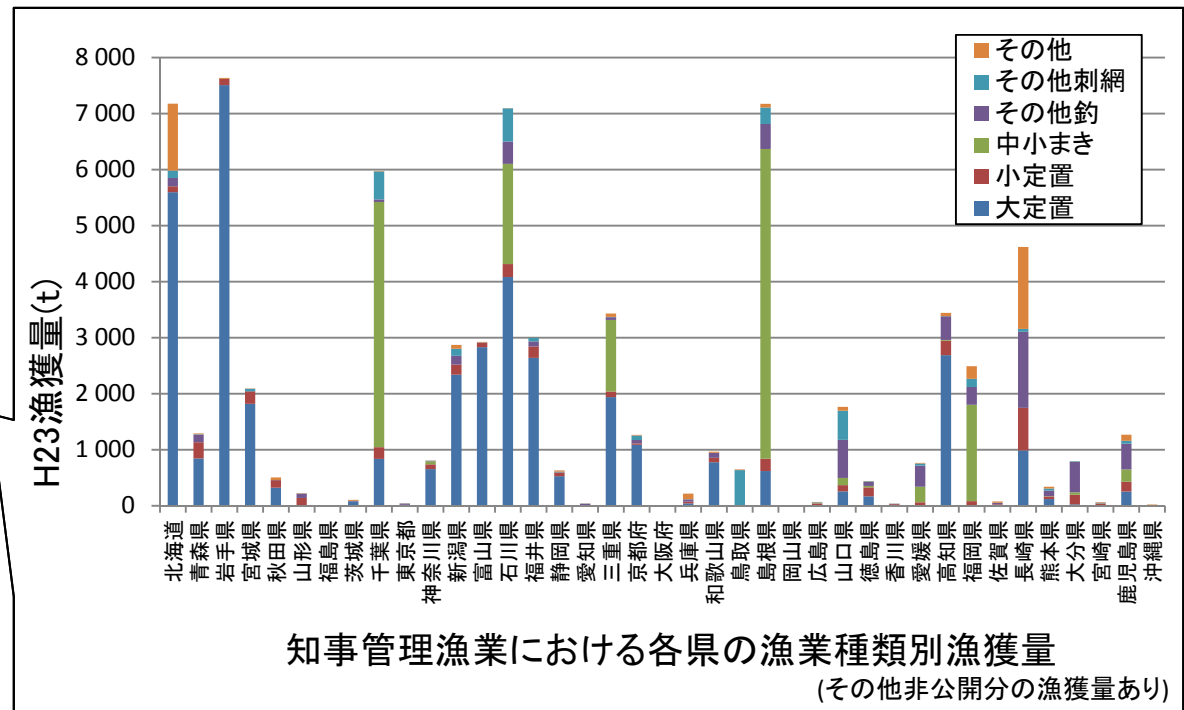
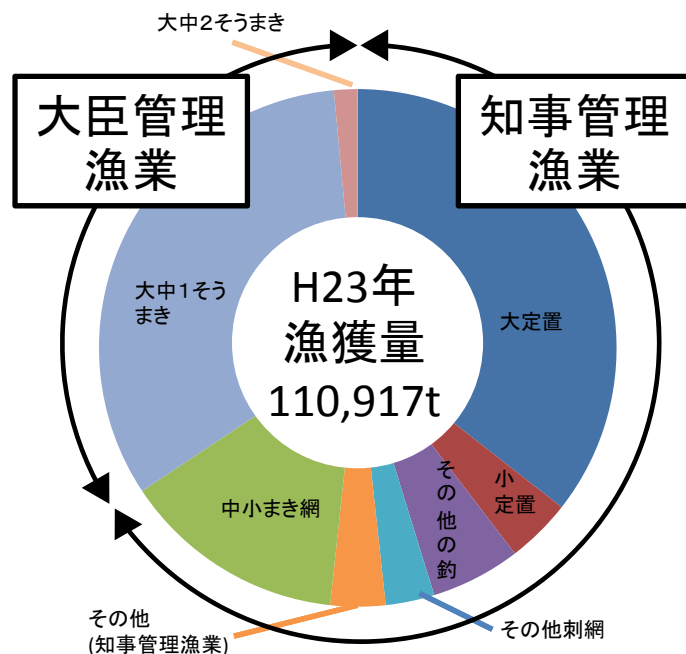
○ブリ類は九州から北海道まで39都道府県において漁獲される。

○ 日本海、太平洋両方の海域で漁獲されている。



2-3. ブリ類を漁獲する漁業①

- ブリを漁獲する漁業種類は、大臣管理漁業では大中型まき網、知事管理漁業では、大型定置網、中小型まき網、釣り、小型定置網等である。
- 数量管理がしにくい定置網漁業による漁獲が40%を占める。
- ブリ類を漁獲する主要県のうち、北海道、岩手県、新潟県、富山県等は、漁獲の大半が定置網によるものである。

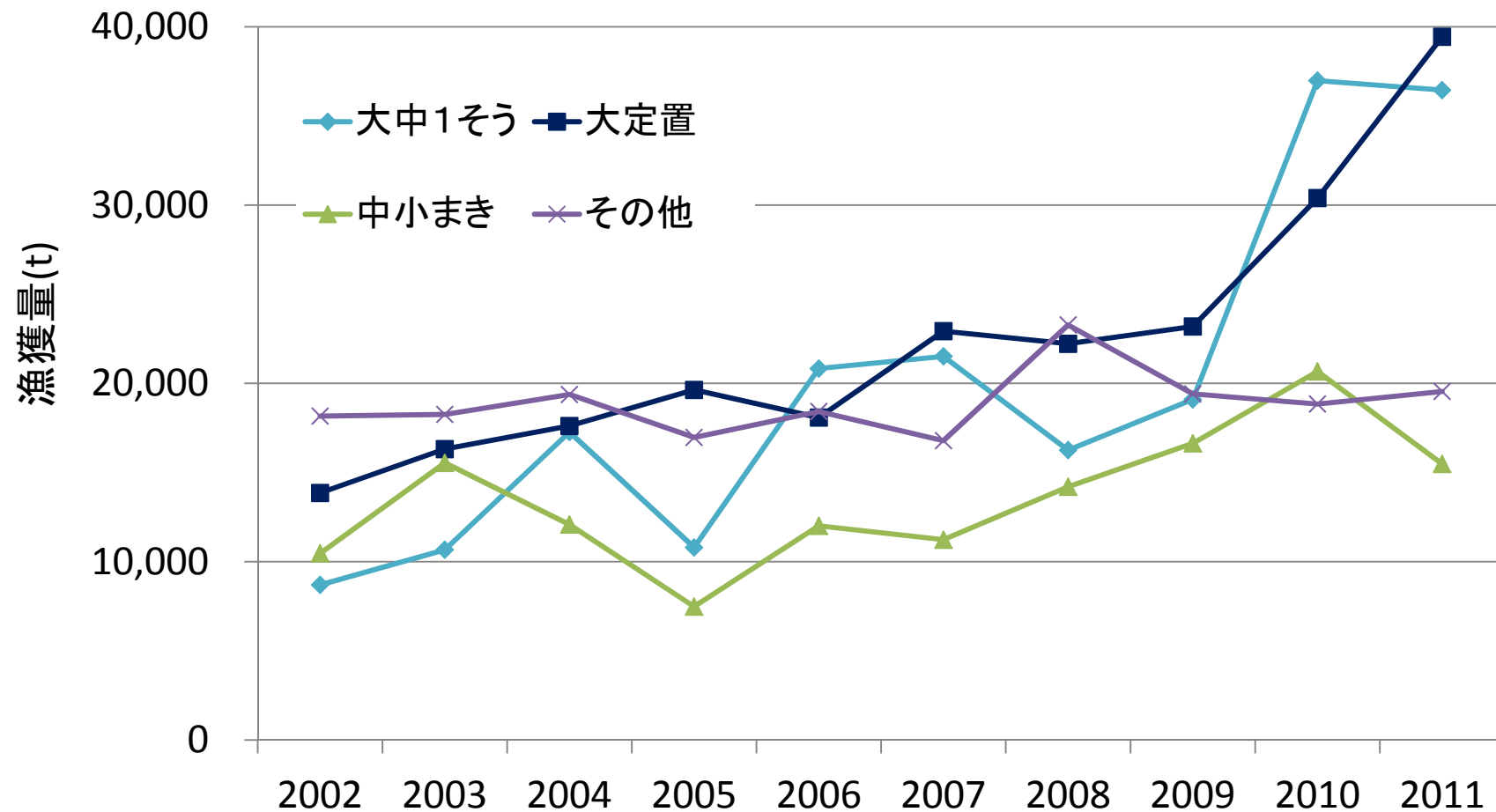


(参考)H23年における主要魚種の定置網漁業での漁獲割合(%)

	マイワシ	サバ類	マアジ	サンマ	スケトウダラ	スルメイカ	カタクチイワシ	ブリ類
定置網での漁獲割合(%)	7.8	11.1	16.6	0.3	12.0	23.4	9.3	40.7

2-3. ブリ類を漁獲する漁業②

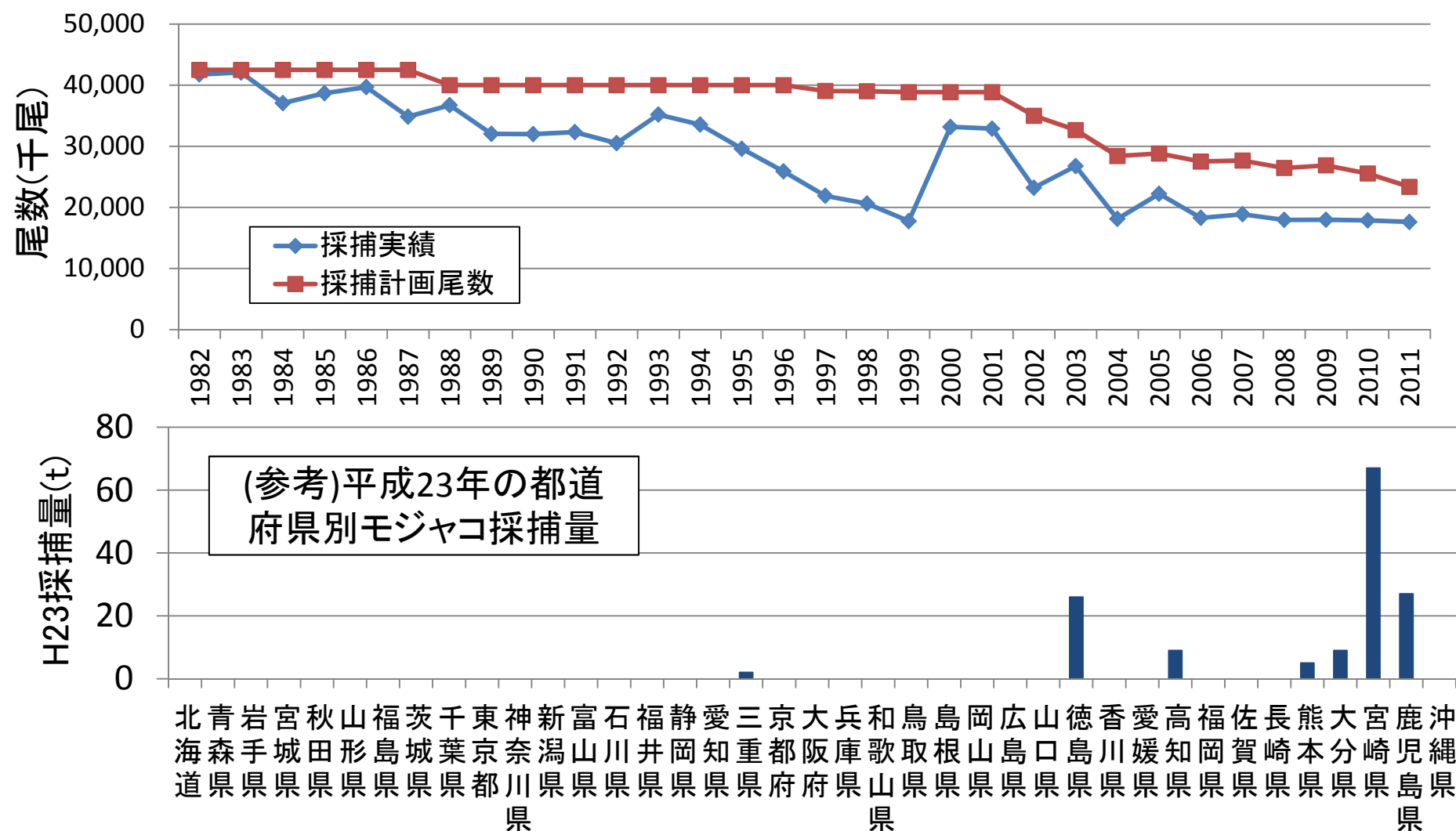
○ 大中型まき網と、大型定置網の漁獲量が増加している。



2-4. モジャコ採捕量

○ ハマチ養殖に供するため、関係県が策定する採捕計画に基づき、稚魚（モジャコ）が採捕されている。

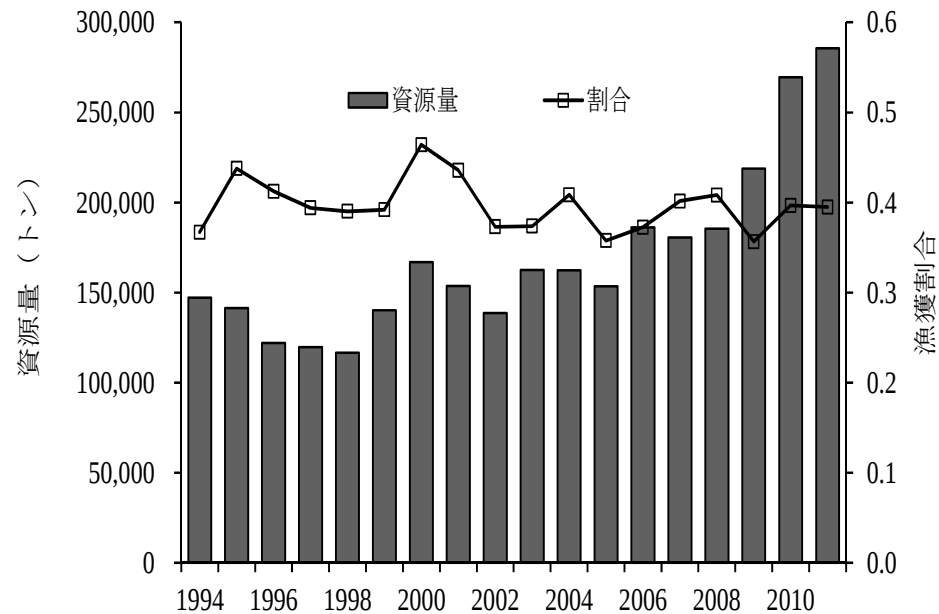
○ モジャコ採捕尾数は減少傾向にある。



3-1. ブリの資源動向等①

○ 水準・動向等

- ・ブリ類の資源は近年の加入が良好でこれまでで最も高い水準にある。水準は高位、動向は増加と判断される。近年、北海道で多獲されるなど、生息域が拡大。
- ・資源量増加の要因としては、海水温の上昇が考えられる。

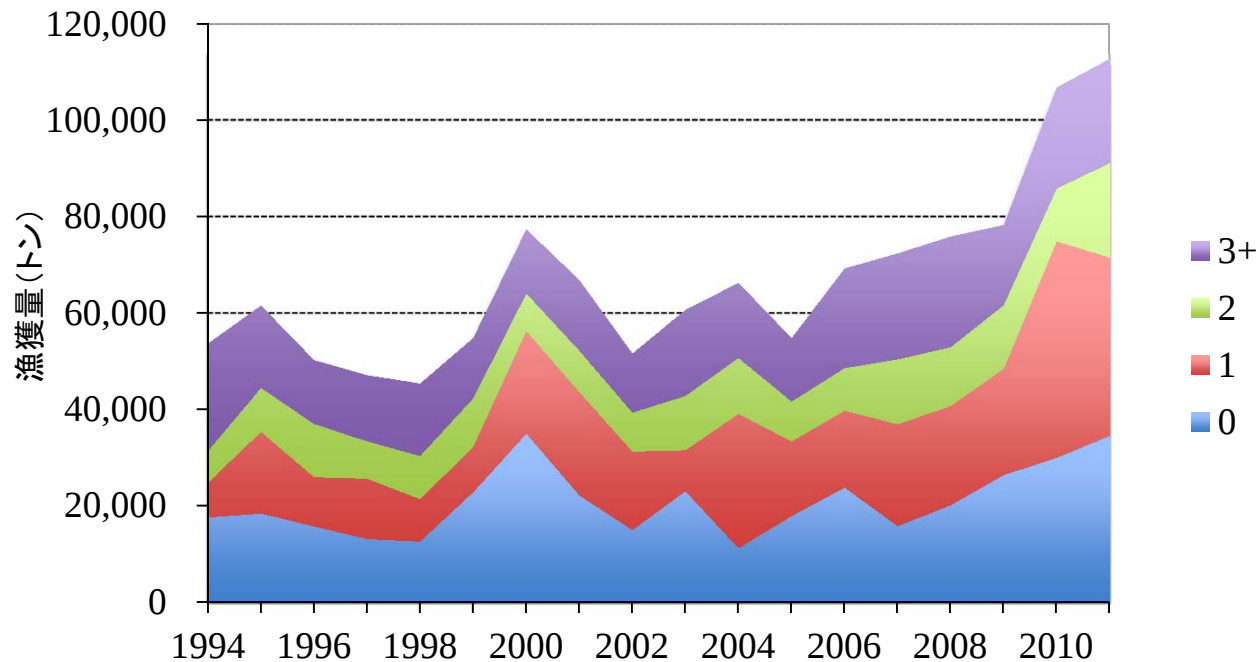


資源量と漁獲割合の推移

3-2. ブリの資源動向等②

○ 漁獲との関係

- ・稚魚(モジャコ)から成魚(3歳以上)まで漁獲の対象となっている。近年のモジャコ採捕は資源に影響を与えるほどのものではない模様。
- ・現在は資源に対して過大にならない水準で漁獲が行われているが、将来的に海洋環境が変化した際には注意を要する。



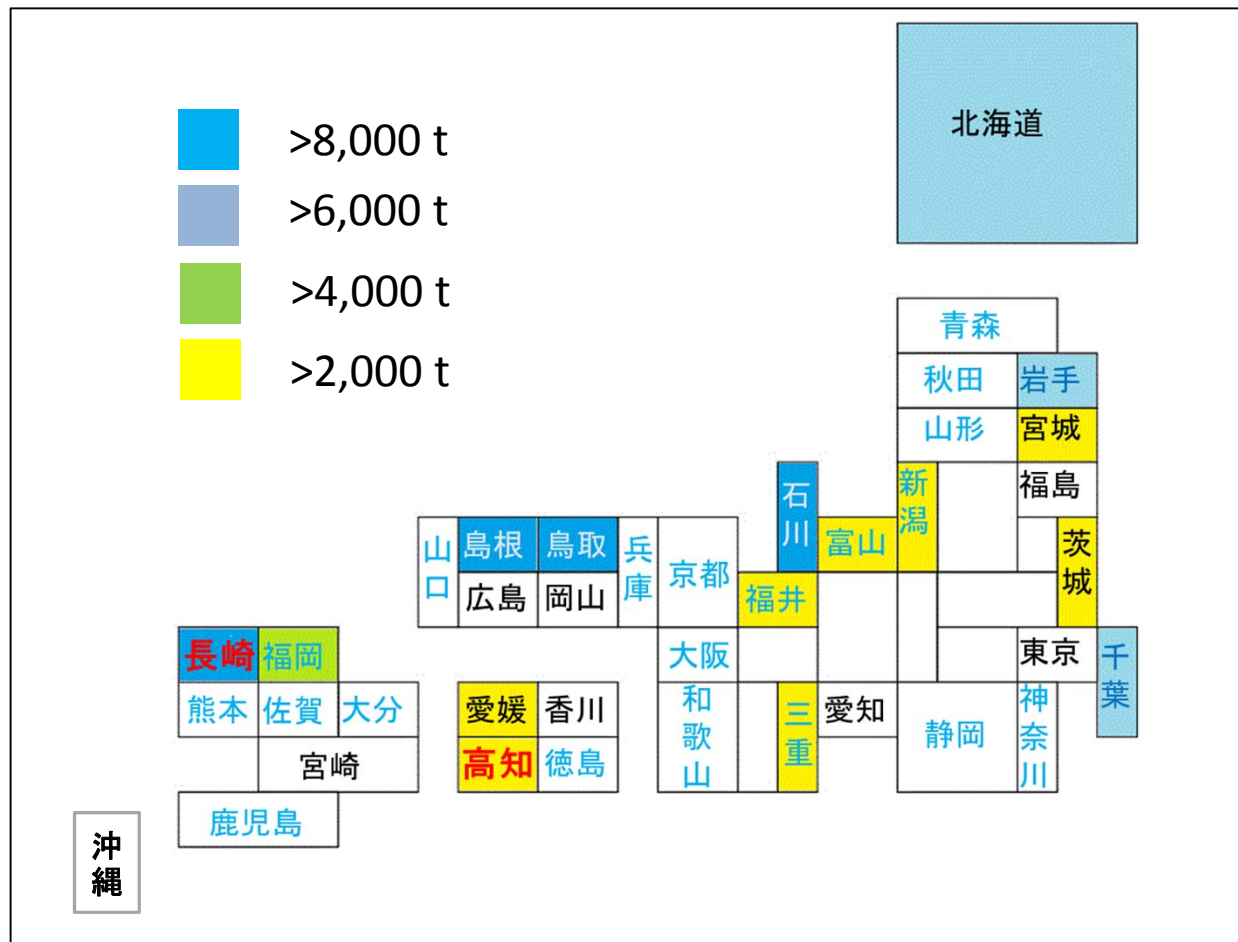
全国的全漁業における年齢別漁獲量

(参考) 年齢と体サイズ、重量

0歳魚(約40cm、1kg)、1歳魚(約60cm、3.5kg)
2歳魚(約75cm、7kg)、3歳以上(約80cm、9kg)

4. ブリの資源管理の取組み状況

- 国の資源管理指針: ブリの資源管理について定めていない。
- 都道府県の資源管理指針: 漁獲のある39都道府県のうち、ブリを魚種別資源管理の対象としているのは高知県及び長崎県の2県。漁業種類別資源管理の対象としているのは、青森県、岩手県など28県。



資源管理指針に
定められた管理
措置

定置網	操業期間制限 休漁設定 漁具制限
釣り	休漁設定
まき網	休漁設定

図中の色は、漁獲量の水準を示す
都道府県が定めた資源管理指針においてブリを魚種別資源管理の対象としている場合、赤字、
漁業種類別資源管理の対象としている場合、青字で表示。

5. これまでのまとめ

- ブリ類の資源は近年の加入状況が良好で、これまでで最も高い水準にある。水準は高位、動向は増加と判断される。
- 定置網漁業による漁獲が40%を占める。その漁獲のほとんどが定置網漁業で行われている県が少なくない。
- 現在は資源に対して過大にならない水準で漁獲が行われているが、将来的に海洋環境が変化した際には注意を要する。
- 現在、都道府県別に個別に資源管理に取り組んでいるが、広域的な資源管理の取組みは特にない。